

## 東山動物園とサル

掲載した写真は、「金色赤ちゃん今だけ！」というタイトルで紹介された 1 月 10 日付の朝日新聞の記事による。昨年 12 月 30 日に東山動物園で誕生した金色のサルで、主にベトナムや中国南部に生息するオナガザル科のフランソワルトンである。金色の体毛が見られるのは生後 2 カ月ほどで、次第に色が変わり、半年後には親と同じ黒に変わるという。



じつに愛らしい姿であり、さっそく翌日の日曜日に動物園に行って撮ったのが下の写真である。大勢の人が金色赤ちゃんを見るために来ていた。写真を撮ったのだが、お母さんにくっついていて、新聞の写真のようにはうまく撮れなかった。それと「ついで」といっては失礼だが、ゴリラの親子の写真も遠くからだが撮ってきた。



昔からサルが好きだ。小学校から中学校にかけて、犬山のモンキーセンターの「モンキー友の会」の会員であったこともある。動物園に行くと、じつとサルを見ていると、さるできなくなってしまう。

ところで、この東山動物園は 1937 年に開園した。それ以前の動物園は鶴舞公園にあった。名古屋東部の広大な土地に動物園がつけられ、60 年以上の年月が経つ。戦争の時代には動物たちも危機的な状況にあったことであろう。現在の東山動物園は、全国でも指折りの動物園であり名古屋の宝だ。

動物園とともに気に入っているのが植物園である。起伏に富んだ地形をうまく利用しており、四季折々の植物が心を和ませてくれる。星が丘門から植物園に入り、そして動物園でサルを見るのが日曜日の「散歩コース」の一つになっている。

(5月1日 記)